

人生ならせば同じ

六年 Y・H

恵泉に入学してあっという間に五年半が過ぎました。日々卒業が近くなっていく今、これまでの学校生活を振り返ると様々な経験のつながりから今の私が作られていると思います。

一つに、所属していたチアリーディングクラブでは副部長という役職を務めたことです。その重い役職と自分の行動とが噛み合わなく、理想と現実の差を思い知り、投げ出したくなることが何回もありました。しかし、部長というより大変な仕事をしている同輩、それを支えている同輩や後輩を見て、こんな弱い自分ではだめだと思わされました。今考えると副部長という役職から原動力をもらってばかりいたなと思います。失敗ばかりでしたが、失敗をすることで成長するという経験ができました。多くの失敗をくりかえした中で成功する、という達成感を得ることもでき、努力の大切さも知りました。クラブに入っただけにより大きかったことは同じ目標をもって辛いことも楽しいことも全てを一緒に過ごしてきた仲間を得ることができたということです。ライバルであり仲間であるという、存在がいることに本当に感謝しています。常に共にいることが嫌になったことがないといえば嘘になります。しかし、そこまで共に過ごせる仲間、一緒にいて嫌なことも含めて楽しいと思える仲間は、クラブの仲間しかいません。こんな仲間にはこれから出会えないのではないかとも思います。仲間という言葉がなんとなく恥ずかしくなることもあります。一生大切にしたいと思える存在を与えてもらいました。

なんとなく入った体育部では副部長を中学で、高校では部長をやらせていただきました。初めて二番目、ではない一番目という役職につき、こんなにも一番上に立つということは大変だったのかと、部活での自分の甘さに気付かされることもありました。またスポーツデーの準備は忙しいながらも充実感を与えてくれるものでした。初めから終わりまで色々と迷惑をかけてしまいましたが、今、任期がおわって思うことは部長をやらせてもらえて良かったということただ一つです。流されるままに副部長となった私が部長まで務め、体育部一大行事であるスポーツデーが終わるまで部長らしく振舞うことはできなかったと反省することばかりですが、良かったこと、悪かったこと、楽しかったこと、悔しかったこと、中立の立場でいることの難しさなど、色々なことを部長という

立場になれたからこそ経験することができたと思っています。副部長、部長になるという経験を与えてくれた体育部の部員に本当に感謝しています。

最後に、恵泉で過ごす中で常に私が考え続けてきたことは震災のことです。私が中一の時、三月に震災がおき、祖父母を亡くしました。恵泉に入っすぐの出来事でした。幼かった中一の私は、今までに経験したことのない地震の揺れを怖がり、祖父母の死を受け入れられることはなく、ただただ怖い、という思いしか抱くことがありませんでした。学校には何もなかったように通い、部活をして逃げていたと思います。

震災から四年が経って行った福島は、今もまだ震災当時から進展していません。変わったことといえば、道が雑草だらけなこと、除染するための施設ができたことや、廃棄物が山積みになっていることくらいでした。そのような中にある祖父母の家は、あると言っても、形はありません。この光景を高三になって改めて見て、初めて客観的にとらえることができました。高一の時、自分の気持ちをどうにもできなくなり、先生に怖いこと、後悔していることや誰にも言えなかったこと、全てを話したことがあります。その時、先生は何でも言っていていいんだよと言ひ、ただ話をきいてくださいました。その時私は、誰かに聞いて欲しかったのだと気が付きました。全てを受け止めたような気がしていましたが全くできていませんでした。人に話すということは家族にも相談できていなかった私の中で大きな一歩でした。それは私が震災を受け止め始めるきっかけだったのだと思います。そこからは自然と人に相談でき、気持ちを消化できるようになりました。何も知らなかった中一から比べると、今の私は、色々な事実を知らされてきました。知らされる度に、当時何も知らなかったことに落ち込みこんなにも自分は無知でただ過ごしていただけだったのかと自分の幼さを悔み、知らされた事実を受け入れられない自分の弱さに気付いて落ち込みました。今でも知らないことはたくさんあると思います。しかし、知らないことを悔やむ気持ちはありません。少しずつ知っていきたいと思っています。

今、私は震災が起きたことを受け止められているのだと思います。しかし、受け止めたといっても事実はなくなりませんし、忘れることはなく、ここで終わりだ、という区切りはありません。私自身、地震が起きたら怖くなりますし、震災の資料や写真はまだ読んだことはありません。被災地訪問の話は聞かないようにしてしまうし、夢でなんども瓦礫や、津波、亡くなった方の写真を見た光景を思い出して眠れなくなることもあります。これはまだ十分には震災を受

け止められていないのではないかと、とも言えます。ですが、今の私は昔のように取り乱すことはなくなりましたし、不安定になることもなくなりました。

この経験によって、失うものや大変だったことも多かったです。家族の大切さを知りました。気持ちの面での成長があり、得ることもありました。また、恵泉には何も気にしないで普通に接してくれる部活の仲間や友達、話を全て聞いてくださった先生もいて、自分には支えてくれる人がいるということも知りました。何度も祖父母のことを思い出して、生きていればと思うこともあり、前に進めない時もありますが、そんな自分の弱さも自分で受け入れていけるような強い人になりたいです。これからつらいことが他にも出てくることがあると思います。その時は、祖母が言っていたという、「人生ならば、同じ。つらいことがあったら必ず楽しいことはある。」という言葉の思い出したいと思います。

今まで、クラブや部会、震災を通して私が経験してきたことを話してきました。全てを通して思うことは、何かを経験し成長するきっかけはいつあるかわからないけれど、もし訪れたなら全力で向かっていくことが大切だということです。楽しいことでも辛いことでも、その時にしかできないことがあり、その時に行動したからこそ何か得られるものがあるということです。私自身、逃げたくなることもたくさんありましたが、逃げずに何か行動してきたからこそ、今悔いなく過ごせているのだと思います。そこにはたくさんの人、先生や友達、家族の支えがありました。恵泉で過ごしていく中で支えてくれる人がいたからこそ、逃げずに頑張ることができたこと、感謝しています。

恵泉での経験はこれからの私の人生の中でとても大切なものです。これからも色々な経験をして、逃げたくなることもあると思いますが、その時々を、支えてくれる人を大切に、自分の成長のために逃げずに一歩踏み出せるような人になりたいと思います。